Case 1

「仕事の一環」として受けてもらえる環境を構築

健診・保健指導を勤務スケジュールに組み込んで実施

青森県東北町

業態：識別工事業

株式会社 東部建設

お話を伺った方

代表取締役社長　**岡山　伸泰** さん（左）
代表取締役会長　**岡山　政憲** さん（中）
取締役　**岡山　みどり** さん（右）

特定保健指導推進のきっかけ・背景

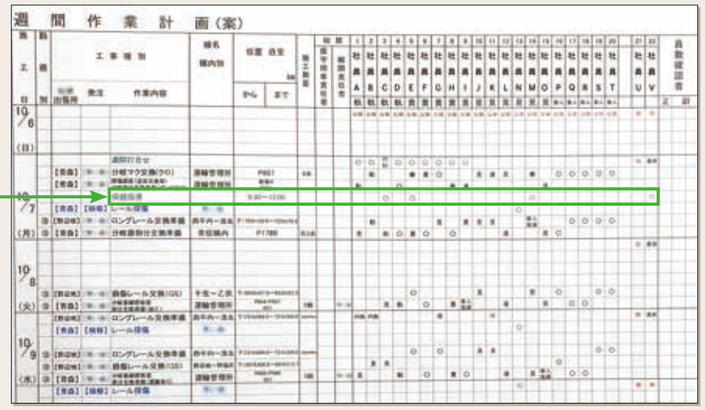
線路の補修工事は夜勤が多く、体が資本の仕事です。突然病気で倒れるなどしたら現場が止まってしまい、元請会社や鉄道会社にも迷惑をかけてしまいます。経営理念に「常に健康に留意し家庭に笑顔をもたらす」と掲げているように、社員の健康を重視しており、協会けんぽからのすすめもあって特定保健指導を実施・推進しています。

point 01 勤務スケジュールに組み込んで特定保健指導を実施

各現場の工事に支障が出ないよう配慮しながら、会社側で日程を調整した上で、協会けんぽと保健師・管理栄養士派遣の日時を調整します。**あらかじめ勤務スケジュールに特定保健指導の予定を組み込み、**当日は、1日に3～4人ずつ午前中に受けてもらい、午後から勤務に戻る形で実施しています。

対象者全員が受けており、嫌だという人もいません。勤務スケジュールに組み込んでいるので、仕事の一環であるかのようにみなさん受けていますね。

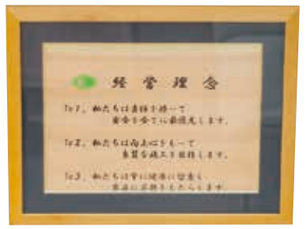
- 日勤日の午前中に設定し、就業時間内に受けられるように。
- 役職者が現場にいなくならないよう注意してスケジューリング。
- 特定保健指導終了後、現場など仕事に戻ってもらう。



社員の健康を重視する業界・社風

- 万が一工事中に社員が倒れたら、工期の遅れや事故につながりかねません。そのため、事前に発注元の鉄道会社にも社員の健診結果を提出しています。
- 人手不足の時代なうえ、人海戦術の仕事なので、社員に健康で長く頑張ってもらうことが重要です。

みんな健康で、大きな病気で長期で休んだり、入院したりする人は出ていません。



▲事業所に掲げられた「経営理念」。3つ目は社員の健康と家族の幸せが目標。

point 02 各作業所内で保健指導を実施

当社の拠点となる作業所は、青森作業所と野辺地作業所の2か所あります。**それぞれの作業所に保健師・管理栄養士にきてもらい、作業所内で保健指導が受けられる**ようにしています。病院などに出向く必要がないので、より受けやすくなっていると思います。

健康経営の取組

協会けんぽ青森支部の「健康宣言」事業にも参加しています。作業所の外に喫煙所をつくり作業所内禁煙を実現。受動喫煙を減らすことができました。
今後は、健診の結果、要治療・要精密検査となった社員に対する医療機関受診の働きかけも実施していきたいと考えています。

point 03 健診もスケジュールに組み込んで実施

健康診断は年に2回、社員全員に受けてもらっています。特定保健指導と同様に、**日時を決めて人を割り振り、あらかじめ勤務スケジュールに組み込みます。**以前は、午後から現場に出てもらっていましたが、バリウムを飲んだりすると勤務に影響する方もいるので、**その日は仕事をしなくていいようにシフトを調整しています。**

毎年同じ先生が来てくれるため、「去年よりよくなってる」など経年のアドバイスももらえるので助かっています。

健診バスも活用して受けやすく

青森作業所

決められた日時に健診センターで受診

野辺地作業所

作業所に近い本社に健診バスを呼んで一斉実施

事業所担当者からひとこと

✔すべて社員任せにするのではなく、勤務時間に組み込んだり、休暇を設定したり、会社として環境づくりを行わないと、特定保健指導の利用率を上げるのは難しいのではないでしょうか。

✔社員のことを大切に思うのなら、体を壊して辞めていくということがないよう、健康面もしっかりサポートしていくべきだと思います。

株式会社 東部建設
青森県上北郡東北町字滝沢平2-580
https://toubu-k.co.jp

設　　立：1974年1月
従業員数：38名（2024年10月1日時点）
事業内容：在来線線路のメンテナンス（線路の歪みを補正する軌道整備、定期的なレール交換、分岐器交換、枕木交換、道床（バラスト）交換 など）